
80巻3号

2025年7月1日

YAA 天文会報

(7~9月号)

805号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



アンタレス付近

撮影：山形幹夫

観望ガイド

正木

雨の少ないまま明けてしまいそうな今年の梅雨ですが、本格的な夏を迎えての水不足が心配ですし、農作物に影響のないことを祈ります。

7月4日に水星が東方最大離角となります。今回は地平からの高度が高いため観察しやすいと思います。日没直後だと真西から10度ほど北側、高さ15度ほどの空を探してみてください。薄明の中ですが、双眼鏡を使うと案外容易に見つけることができます。

月末31日に、みずがめ座 δ 南流星群とやぎ座 α 流星群が極大となります。当日は上弦前の月齢になりますが、月明かりの影響なく良い条件で観測できます。出現数は時間あたり5個前後と多くはないですが、火球のような明るい流星を見ることができます。

8月といえばペルセウス座流星群。今年は13日5時が極大と予想されていますが、満月後の月明かりに邪魔されてしまい残念です。しかし出現数が多い流星群ですから、月が視界に入らないような場所を選んで見ればよいと思います。はくちょう座 κ 流星群は18日が極大です。こちらは月の影響はほとんど無くなります。16日23時55分、おうし座17番星(3.7等)の星食(出現)があります。これはプレアデス星団の中の星ですから、双眼鏡や低倍率の望遠鏡で見ていると徐々に星が隠されていく様子を楽しむことができます。ただ、月の出直後の現象ですから、東北東の視界が低空まで開けた場所を選んでください。

19日に、水星が明けの空で西方最大離角になります。21日から22日には新月直前の細い月が接近し、その上方には金星と木星が見えています。朝焼けの空を背景に並ぶ月と惑星、カメラの良い被写体になります

太陰太陽暦(旧暦)7月7日のかつての七夕を国立天文台の提唱で「伝統的七夕」と呼びますが、今年は8月29日になります。現在の7月7日の梅雨時の七夕よりは晴れる可能性が高くなりそうですし、また7月の七夕よりこの時期の方が、空が暗くなるとこと座のベガ(織姫星)・わし座のアルタイル(彦星)、そしてはくちょう座のデネブを結んでの夏の大三角が頭上高くに見えます。

9月、23日が秋分の日ですが今年も残暑はまだまだ続くのでしょうか…
8日に皆既月食があり、全国で見ることができます。ただし部分食の始まりが7日の深夜から日付をまたいだ後の8日1時27分、皆既食の始まりが2時30分、食の最大3時12分、皆既食の終わり3時53分、部分食の終わりが4時57分、すでに薄明が始まりまもなく西に沈んでいきます。

表紙写真の違和感

山形幹夫

表紙写真は鑑賞して見栄えのあるものとしたい思いで追いかけているさそり座のアンタレス付近です。ここは全天で一番カラフルと言われているところです。モノクロカメラで撮影・合成された画像ではもっと赤・青・黄色がはっきりと画像処理できたものがあり鑑賞して楽しめる写真になっているようです。

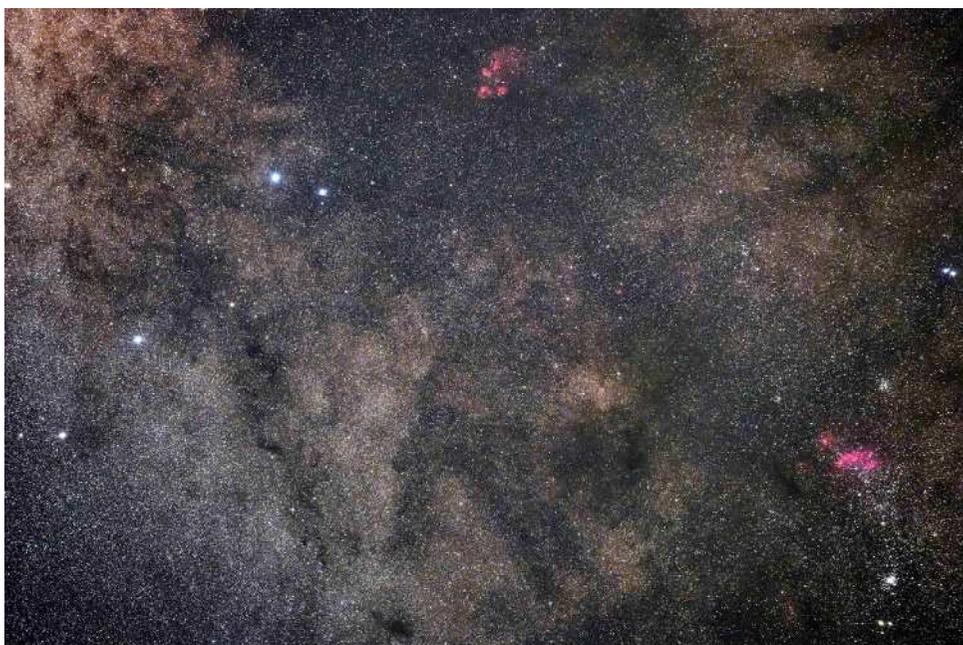
表紙写真は借用品のレンズで撮影しました。本写真の違和感ですが、中心部分が丸く明るく、周囲と明確な差があり、まるで日の丸国旗のように感じませんか？メーカーさんの名誉もあり詳細は控えますが、本レンズには光線切れがあります。設計上の仕様です。本レンズはマイクロレンズでして、近接撮影に最適化されており、設計で無限遠まで解像力が落ちないようにしています。レンズや望遠鏡に光線切れがあると所謂「星割れ」が発生することが有名です。これらの影響が無いレンズや望遠鏡を選択したいものです。これからも皆さまと情報交換できればと考えています。(mailto: hgb01131@nifty.com)

私の技術では日本国内に於いて撮影した画像でここまで色や暗黒部のコントラストを出すことが未だできていません。表紙写真は空が暗く抜けが良いオーストラリアで撮影しています。

本頁の写真はさそり座の中心から尻尾の部分です。さらっと撮影したのですが、NGC6334出目金星雲、IC4628エビ星雲が写っています。画像処理も自動レベル調整しただけで、これだけ写っていればそれなりに楽しめると思います。

【表紙写真】2024年10月1日 撮影地：オーストラリア、ジョージタウン
Nikon D810A f=180mm F4に絞るISO3200 90秒×24 (計36分)

【本頁写真】2024年10月1日 撮影地：オーストラリア、ジョージタウン
Nikon D810A f=180mm F4に絞るISO12800 30秒×1



日月星の伝承を訪ねて (84)

横山好廣

津久井の月待塔 ⑦

津久井の月待塔に造塔の趣旨を刻した碑文が未見のため、その趣旨を推測すると、月待供養・蚕神供養・念仏供養・二世安楽・所願成就などが考えられる。

加えて、お触れに反するような塔高が三尺（約 90 cm）を超えるような大きな月待塔を建てようとする強い意志も窺われ、そこに日本古来の巨岩・巨石信仰の思想が認められる。

津久井は巨石の産出に恵まれており、比較的手に入れやすい条件下にあった一方、巨石の搬出は危険を伴う作業であった。次に紹介する二十三夜塔には、巨石搬出の悲話が伴っている。

◎調査地 相模原市緑区青根 2072 上青根地区（旧津久井町）

調査年月日 2023(令和5)年10月13日

形状 自然板石 文字塔

名称 二十三夜塔

銘文 正面「廿三夜」

左側面「嘉永二年(1849)

十一月吉日」

「村中」

法量 塔身 170×90×55

台石 31×197×110



台石を含めると高さ 2m を超える大きな二十三夜塔である。本碑に伴う悲話は次の通りである。出典『津久井郡文化財 石像編』昭和 58 年 p67。

「この巨石は裏丹沢約二キロの山腹、釜立沢から出したものである。その時トエモという人が石に潰され、その石は今も「トエモ石」として、山の地名となり末孫に語り継がれている。郷土の信仰の中心であった、月待の行事については不明である。」と記述されている。巨石の搬出の危険性を物語る悲話であるが、月待の行事が郷土の信仰の中心であったという記述にも注目したい。近くの人に月待のことやトエモ石について尋ねてみたが、不調の結果に終わり、調査の難しさを改めて実感した。しかし、本碑からは大きな二十三夜塔を建てようとする意気込みや篤い信仰心が伝わってくる。

また、上青根に隣接する青野原地区西野々の宝鏡寺の参道に立つ萬霊塔（安永 7 年・塔高 250 cm）にも巨石搬出の逸話が残っている。『つくい町の古道』（津久井町教育委員会 1989）によると、「原石は旧亀見橋近くにあり、搬出するため村内善男は勿論、長野、伏馬田両村の力を借りたが進捗せず、最後に婦人の協力を得た。すると予想外に進捗し、立派に建立出来たという話である。」とあり、巨石の搬出は難事業であったことが判る。

上青根の二十三夜塔の搬出にあたって、恐らく村人総出で当たったのではなかろうかと推察する次第である。



宝鏡寺参道の萬霊塔

今までに出会った月待塔の中で巨岩中の巨岩を次に紹介したい。通称、念仏岩と言われているが、二十参夜の文字が刻されているので、二十三夜塔としても扱いたい。



*念仏岩の碑面中央には倒木が寄りかかり、全体に岩肌にコケ類が生えている困難な状況にあり、部分的にコケ類をはぎ取り判読した。分かりにくいのが、倒木の左には「二十参夜」とある。背面の観察は出来なかった。

-
- ◎ 調査地 相模原市緑区小原 164 底沢地区美女谷温泉南 (旧相模湖町)
調査年月日 2024(令和 6)年 5 月 4 日
形状 自然石 文字塔
名称 供養塔(廿三夜塔)
銘文 正面 右から「光明真言・南無阿弥陀仏・二十参夜他阿花押」
「底沢村中」 *造立年代 不明
法量 290×390×150 *台石なし

まさに巨岩である。光明真言・南無阿弥陀仏・二十参夜の下に念仏遊行僧・他阿の名と花押が刻されているので念仏供養塔に分類される。また、同時に二十三夜待との習合を示す二十三夜塔でもある。津久井地方では二十三夜待と念仏講の習合していた跡が石造物に残っている。二世安楽を祈る共通する信仰が結びつけたのであろうか。

巨岩に神妙なる靈威を感じ、信仰の証を刻し、祈ることは、生前に善行を積むことになり功德になるという思想が表れている。

また、巨大な石塔を尊ぶ思想は二十三夜塔の他に念仏関係(名号塔・百万遍塔・光明真言塔など)や萬靈塔、庚申塔に見受けられる。そこに津久井方面における巨岩・巨石信仰の広がりや深さを感じる。それは、山名、土地名、神社名などに巨岩・巨石・奇岩等に因んだ名がつけられていることから窺われる。例えば、石老山・石砂山・石山(京塚山)、上岩・下岩・大岩下・石神戸、石神尊(祠)・岩神社・大石神社・佐野川と名倉の石楯尾神社などが挙げられる。

●美女谷(地名) 底沢川の上流・西入川の沢に、説話「小栗判官平満重と照手姫」の照手姫が出生の美女伝説があつて、ここから美女谷の地名が生まれたと言われている。今は「美女谷温泉」にその名をとどめている。

脱線するが、今年の NHK 大河ドラマと関連し、美女谷から江戸吉原の遊女・高尾太夫(紺屋高尾)が出ているそうである。

(参考・前川清治著『津久井歴史ウオーク』東京新聞 2003)

追記 本碑を探しあぐね、その探索を諦めかけていた折、近くで草刈り中の岡本家の皆様に助けられて探し当てる事が出来たことを記しておきたい。念仏塔のある崖下迄の雑木等を刈り払って道筋を付けて頂き、またお子さんから念仏岩の他の巨岩(銘文等なし)や庚申塔(天保 3)を捜して貰うなど大変お世話になった。ご家族のご厚情に感謝。

天象

相原 榮

7月

水星: 夕方の西北西天、上旬は観望好期 +0.3~+5.3等 かに座
金星: 明け方の東天、観望好期 -4.2~-4.0等 おうし→オリオン座
火星: 夕方の西天、宵に沈む +1.4~+1.6等 しし→おとめ座
木星: 太陽方向、観望困難 -1.9等 ふたご座
土星: 夜半前の東天に昇る、観望好期 +1.0~+0.8等 うお座

3日 04h30m 半月(上弦)
7日 05h05m 小暑
11日 05h37m 満月
18日 09h38m 半月(下弦)

22日 22h29m 大暑
25日 04h11m 新月
28日 宵の空で月と火星が接近
みずがめ座δ流星群が極大の頃

8月

水星: 明け方の東天、20日前後は観望好期 +5.3~-1.0等 かに→しし座
金星: 明け方の東天、観望好期 -4.0~-3.9等 ふたご→かに座
火星: 夕方の西天 +1.6等 おとめ座
木星: 夜半過ぎに昇る、明け方の東天 -1.9~-2.0等 ふたご座
土星: 宵に昇り一晩中楽しめる +0.8~+0.7等 うお座

1日 21h41m 半月(上弦)
7日 14h52m 立秋
9日 16h55m 満月
12日 宵の空で月と土星・海王星が集合
13日 05h ペルセウス座流星群が極大の頃(夜半以降は月が影響)
16日 14h12m 半月(下弦)

18日 09h はくちょう座κ流星群が極大の頃
21日 明けの空で月・水星・金星・火星が集合
23日 05h34m 処暑
15h07m 新月
26日 夕方の空で月と火星が接近
31日 15h25m 半月(上弦)

9月

水星: 明けの東天で高度を下げる -1.0~-1.7~-0.8等 しし→おとめ座
金星: 明け方の東天、観望好期 -3.9等 かに→しし座
火星: 夕方の西天低空 +1.6等 おとめ座
木星: 夜半に昇り日の出後に南中 -2.0~-2.1等 ふたご座
土星: 夕方昇り夜半に南中、観望好期 +0.6等 うお座

7日 17h52m 白露
8日 01h26m 全国で皆既月食(皆既食
02h30m~)
03h09m 満月
深夜に月と土星・海王星が集合
9日 21h 9月ペルセウス座ε流星群が
極大の頃(条件最悪)

14日 19h33m 半月(下弦)
20日 明け方の空で月と金星・レグルスが集合
22日 04h54m 新月
23日 03h19m 秋分
30日 08h54m 半月(上弦)